20230708　指導会報

テーマ1「その子ができる方法を作る」

中２　平野さん　連立方程式の例

　　ｘ+ｙ＝1

　　2ｘ+ｙ＝－4

ｘ+ｙ＝1

　　－）2ｘ+ｙ＝－4

ができなかった。

**この場合、－４を引くという作業で詰まることが多い。**

**なので、この子には「係数が同じ場合、どちらかの式の両辺にマイナスをかける」というルール―を作った。**

**ｘ+ｙ＝1　　→　　　－ｘ－ｙ＝－1**

**+）2ｘ+ｙ＝－4**

たす場合は理解できたが、問題によっては計算ミスが出る。

**縦の計算をメモ書きで横に書くルールを追加**

**－x+２x＝x**

**－1+（－４）＝－5**

これで計算ミスが極端に減った。

これは中１の正負の数、文字式ではあまりミスしない子であること理解したうえで、では出来ている形に計算を変形しただけである。

この２つのルールを付加した結果、最初から係数が揃っている（異符号、同符号）のパターンはクリア。

この様に生徒が解けるようになるための「計算の方法」を生み出してあげるのが個別指導の強みになります。

自分流ではなく、その子にとって一番できるやり方を作ってあげてください。

もちろん、とてもレベルの高い事なので、困ったら私か石山講師に相談してみましょう。

テーマ2　国語：物語文の指導

物語文がなぜできないのか？

それは、「感情」が分らないからです。

「感情」を理解させることが物語文を解くためには必要になります。

感情を理解するためには「言葉」「行動」から推測する必要があります。

その中でも特に「行動」から感情を理解することが苦手な子が多い。

したがって、「行動」と「感情」を繋げていくのが物語文の重要な指導ポイントになります。

授業としては

「○○という動作はどんな時にするか」という問を板書

生徒に答えさせる。正解を教える

例　目をぱちくりさせた。

板書

問題「目をぱちくりさせるときはどんな時か」

答え「驚いたとき」

例　「目をつぶった」

板書

問題「目をつぶる時はどんな時か」

答え「①あきらめた時　②見たくないものを見そうになった時　③相手の話を聞きたくない時　」

　　　注）比喩表現で「失敗を許す時に使う」

答えが多い場合はその文章での感情+1～2つ出してあげましょう。

問題にかかわらず、文中から何点か拾って出題しよう

自分にはない「感情と行動の結びつき」をたくさん作ることによって作中の人物の感情が分るようになります。